

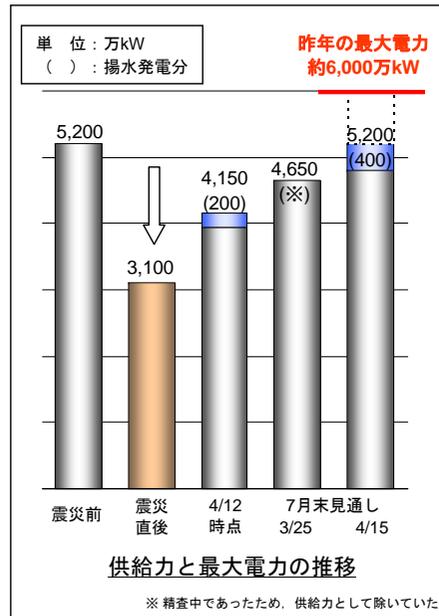
1. 需給状況について

今回の地震により、当社電源については、約2,100万kWが被災・停止し、これにより大幅な供給力不足が発生しましたが、3月14日以降実施させていただきました計画停電や皆さまの節電へのご協力などにより、不測の広域停電は回避されている状況です。

現時点で今年の夏期における供給力としては、震災により停止した火力の復旧、長期計画停止火力の運転再開、定期点検からの復帰、ガスタービンの新規設置などにより、5,200万kW程度と見込んでいます。

(3/25時点では、4,650万kWとお知らせ)

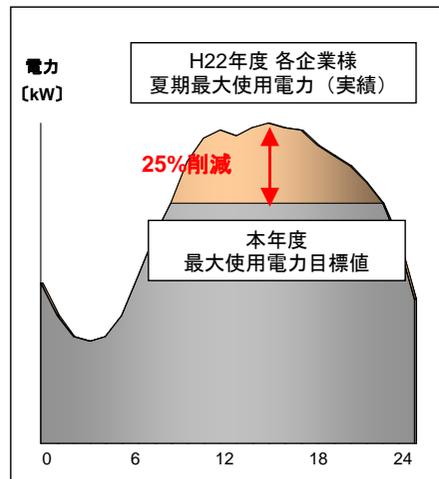
一方、夏期の最大電力については、記録的猛暑だった昨年は、約6,000万kWに達しています。



2. 今年の夏期使用電力削減のお願い

このように、今年の夏期においては電力需給バランスが確保できない見通しであり、当社といたしましては、引き続き供給力の増加に最大限取り組んでまいりますが、業界団体さま全体におかれましても、電力需要の削減のご協力をお願い致します。

具体的には、**6月下旬～9月下旬までの平日10時から21時の間、電力需要ピークを昨年度比で25%削減**していただきますようお願い申し上げます。なお、今後の需給状況の変化によって、必要な需要抑制量については、随時見直されます。



3. 節電手法の概要

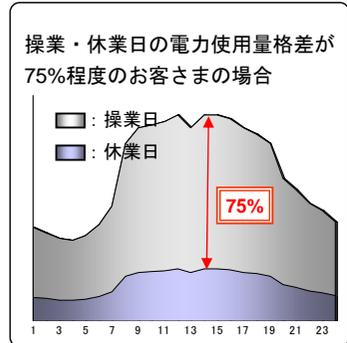
(1) 休業日の分散化、集中化手法

【概要】

6月下旬から9月下旬までの平日の休業日を数社間で調整していただき、月曜日～金曜日に分散する方法。または、週間単位で集中化し各企業にて平準化して取得していただく方法。

【例示-1】 平日休業分散方式 (3社間の調整の場合)

電力使用量格差75%を3社にて分割することとなり、平日電力需要ピークの**約25%**を削減



【例示-2】 週間休業分散方式 (3社間の調整の場合)

休業日を一週間毎とし、且つ3社にて分散させることで、平日電力需要ピークの**約25%**を削減



操業、休業日の電力使用量格差が少ないお客さまの場合、休業日の追加など工夫をしていただき、**約25%**を削減



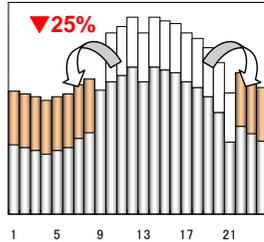
(2) 夜間操業へのシフト、電力使用設備の一部停止手法

[概要]

生産プロセスを調整し、10時から21時の電力需要を夜間、早朝へ移行していただく方法。あるいは、電力使用設備の一部を停止していただく方法。

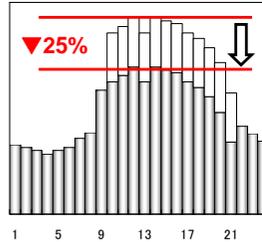
【例示-1】

夜間操業へのシフトにより、昼間電力使用を抑制



【例示-2】

電力使用設備の一部を停止するなどにより、操業をシフトせずに昼間電力使用を抑制

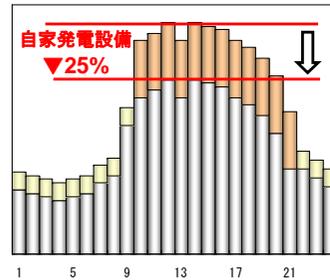


(3) 保有自家発電設備の活用手法

[概要]

休止自家発電設備の再稼働などにより、10時から21時の間、電力需要を削減していただく方法。また、燃料に余力がある場合は、夜間も引き続き自家発電設備の稼働をお願い致します。

(注) 環境条例などへの配慮が必要となる場合が御座います。

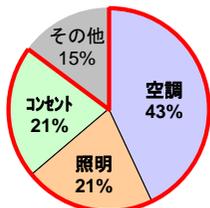


(4) 業務用建物：複合メニューで節電する手法

[概要]

業務用分野はオフィスビル、百貨店、スーパーなど、その業種により電力使用用途が変化します。よって、電力使用量の多い用途の節電メニューを組み合わせ、約25%削減する方法。

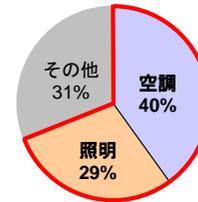
① 大規模オフィスビルの例



年間のエネルギー消費内訳

	建物全体の削減率
空調	10%
照明	14%
コンセント	3%

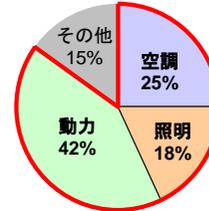
② 百貨店・大型流通センターの例



年間のエネルギー消費内訳

	建物全体の削減率
空調	9%
照明	17%

③ 大型食品スーパーの例



年間のエネルギー消費内訳

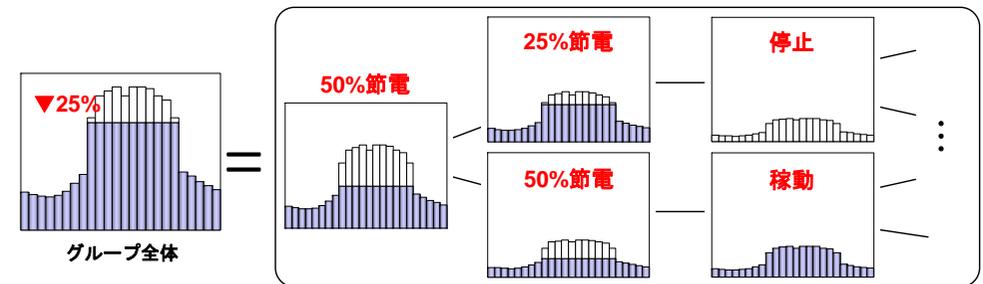
	建物全体の削減率
空調	3%
照明	9%
動力	13%

(5) グループ単位で削減する手法

(業界、企業グループ、地域、工業団地、製品バリューチェーン他)

[概要]

一企業、一建物などにおいて、25%節電が困難な場合、業界や企業グループ、地域、工場団地の企業グループ単位で、「休業日の分散化、集中化」や「各種節電手法」を組み合わせ、総合的に25%を削減していただく方法。



皆様方には、さらにご不便をお掛けすることになり、誠に申し訳ございませんが、極力、電気のご使用をお控えいただき、より一層の節電にご協力をお願い申し上げます。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。